

高等学校における多様な学びの在り方研究モデル校について

県立学校教育課

様々な困り感を抱え、学びのつまずきを経験しながらも社会的・職業的自立を目指し、学習意欲のある生徒に対し、高校における学びを保障するため、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図る教育課程を研究・実践する「高等学校における多様な学びの在り方研究モデル校」の指定を行う。

1 概要

○県立高校に「高等学校における多様な学びの在り方研究モデル校」（以下「研究モデル校」という。）を指定する。

(1) 研究モデル校

- ・ 県立嘉手納高等学校（総合学科）
- ・ 県立石川高等学校（普通科）

(2) 研究モデル校における教育の在り方について

これまで各高校で、取り組んできた上級学校への進学、就職指導を引き続き行うことで生徒の進路保障を図るとともに、学びのつまずきを経験しながらも社会的・職業的自立を目指し、学習意欲のある生徒に対し、手厚い支援が可能となる「教育課程」等について研究を行い、一人一人の学びを保障する。

- ① 「基礎・基本的な学習」等、義務教育段階の学び直しに対応した教科書の使用や教育課程を編成することで、個々の生徒の学びの状態に応じた教育の充実を図る。
- ② 「基礎・基本的な学習」を進めるために、習熟度別授業等に対応した人員配置をすることで、個々の生徒の学びの状態に応じた教育の充実を図る。
- ③ 生徒の実態、学校の状況に応じ「高等学校における通級による指導」を導入する。

※ 研究において、きめ細かな支援を行うための人的配置について考慮する。

(3) 各研究モデル校における実践について

- ① 嘉手納高等学校：「キャリアアップコース」として15名程度を募集し、基礎・基本、及び学び直しや実践的キャリア教育に加え、「高等学校における通級による指導」を行う。また、「ドリームデザインコース」を設定し、柔軟で選択科目の多い総合学科の特色を活かし、自らの将来を設計する力を養う指導を行う。
- ② 石川高等学校：1年生において習熟度別学習、2年生より「進学系統」と「基礎系統」の2つの教育課程の提供による、生徒の実態に応じたきめ細かな指導を行う。

2 経緯及び必要性

本県の高校進学率は、令和2年度97.5%（全国平均98.8%）となっている。進学率が上昇するにつれて、多様な生徒の入学が増え高校に対応が求められている状況がある。

本県では、これまでも高校改革として総合学科、単位制高校、多部制定時制高校など学校の特色化を図ってきた。

現行及び新しい学習指導要領においても、生徒の実態に応じ、高等学校段階の学習に円滑に接続できるよう、高校に義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学習、いわゆる「学び直し」の機会を設けることが示されている。

本県において、様々な困り感を抱え、学びのつまずきを経験しながらも社会的・職業的自立を目指し、学習意欲のある生徒に対し、高校における学びを保障するため、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図る教育課程等の在り方を研究する必要がある。

3 モデル校指定の理由

両校においては、学習における困り感や課題を抱える生徒に対する取組や教育課程の研究が進んでいる。

嘉手納高校においては、総合学科にて、柔軟な教育課程（多様な選択科目）の編成が行われている。

石川高校においては、現在、応用・発展を保障する進学系統と、基礎・基本を徹底するための基礎系統による教育課程を2年生より編成している。